９　国語表記　―研究論文としての表記―

読み手の立場になって推敲する。

研究論文は、読み手が文章の意図や内容を的確に読み取ることができるよう記述することが重要です。

１　用語の吟味

複数の意味をもつ単語（語句）や様々に解釈される可能性のある単語（用語）は、曖昧なまま使うと読み手によって解釈が異なってしまうおそれがあります。言いたいこと（書き手の意図）をきちんと伝えるためには、次のような配慮が必要です。

複数の意味をもつ単語は、意味の明確な単語に置き換える。

（例）　児童生徒を見る。　→　児童生徒を観察する。
児童生徒の世話をする。

様々に解釈される可能性のある単語や用語は、定義付けを行う。

（例）　……心豊かに、生き生きと活動する児童を育てると設定した。「心豊かに」とは、……「生き生きと活動する」とは、……

２　文の推敲

文章は、目に見える情報（文字）だけを頼りに解釈されます。そこで、正しく伝わる文にするためには、分かりやすい文になるよう推敲することが大切です。

一つの文の長さに気を付ける。

長い文は、主語と述語が離れていたり、言いたいことがいくつも含まれていたりするため、文の意味が分かりにくくなりがちです。言いたいことを一つに絞り、文を短くすることで、読み手に正しく伝わるようになります。文の長さは、文字数では 50 字以内、読点「、」の数では多くても３～４個程度に収まっているかなどを目安にするとよいでしょう。

主部と述部の対応を確認する。

主語と述語が対応していない文（「文のねじれ」）は、内容が分かりにくく、誤解が生じやすくなります。文のねじれをなくすには、書き終えた文の主語と述語だけを取り出して、確かめるとよいでしょう。

その他、文章を推敲する上でのポイントを挙げておきます。

事実と意見の区別がはっきり分かるように記述する。

修飾語を少なくする。

回りくどい表現は避け、端的に表現する。

(例)　「理解しやすくなる」　「理解しやすいと言える」　「理解しやすいことが分かる」

↓

「理解しやすい」

〈参考文献〉　教育論文の書き方研究会『教育論文・研究報告の書き方』　教育出版　1996
西川　純『実証的教育研究の技法―これでできる教育研究』　大学教育出版　1999